

薬理学

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------------|--------------------------|------|---|
| 講師 | 馬 渡 遥 香 | 実施時期 単 位 数 | 第 1 学年後期 1 単位 (15 時間) | 実務経験 | ○ |
| 一般目標 (GIO) | 薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。 | | | | |
| 授業概要 | 薬理学は、生体に対して薬物を投与したときの生体側の反応(薬理作用)を知ることを出発点とします。また、薬物を安全にしかも有効に病気の治療に使用するための基本を学ぶこととなります。そのために、治療に使われる範囲から、中毒する範囲までの広い範囲で薬物の反応を勉強します。次に、そのような薬理作用が現れるメカニズム(作用機序)を学びます。 | | | | |
| 学習方法 | 講義 | | | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験100% | | | | |
| 教科書 | 全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」医歯薬出版 | | | | |
| 履修上の注意 | 薬物についての知識を正しく知ることは、歯科臨床に限らず日常生活でも必要なことです。「薬とはなんだろう?」とまず関心を持って講義に臨んでほしい。 | | | | |
| 参考書 | 加藤・篠田監修 現代歯科薬理学 第5版 医歯薬出版 | | | | |
| 実務経験のある教員 (概要、科目との関連性) | 大学病院歯科麻酔科で勤務中であり、臨床現場での経験を活かして講義を行う。 | | | | |

授業計画

| No. | 授業項目 | 到達目標 (SB0s) |
|-----|---|---|
| 1 | 薬理学とは、薬物治療の種類、薬物作用の様式、薬物作用の基本形式と分類、用量反応関係と薬物の安全性の比較 | ①薬物療法の概要(原因療法、対症療法、補充療法等)を説明できる。 ②薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ③用量反応関係の用語を説明できる。 ④治療係数を説明できる。 |
| 2 | 薬物の作用機序 (受容体、イオンチャネル等) | ①受容体の概念を説明できる。 ②受容体と作用薬、拮抗薬の関係を概説できる。 ③受容体を介さない作用を概説できる。 ④イオンチャネルを説明できる。 |
| 3 | 薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)、 薬物の生体膜通過様式 | ①薬物の生体膜通過様式を説明できる。 ②代謝(酸化、還元、加水分解、抱合)と排泄の関連性を概説できる。 ③腎における薬物の排泄様式を説明できる。 ④血漿タンパク質と薬物の結合について説明できる。 |
| 4 | 薬物の適用方法の種類と特徴、生物学的 利用能 | ①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 ②初回通過効果を説明できる。 ③生物学的利用能を説明できる。 |
| 5 | 薬効に影響を与える因子 (生体感受性、年齢、プラセボ効果等)、 薬物連用の影響 (蓄積、耐性、タキフィラキシー、薬物 依存等) | ①薬効に影響を与える因子を列挙できる。 ②小児、高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。 ③プラセボ効果を説明できる。 ④薬物を連用して起こる現象を説明できる。 |
| 6 | 薬物の併用(協力作用と拮抗作用)と薬物 相互作用 | ①協力作用(相加作用、相乗作用)を例を挙げて説明できる。 ②拮抗作用の種類を列挙して、説明できる。 ③薬物動態学的相互作用を概説できる。 ④酵素誘導、酵素阻害を説明できる。 |
| 7 | 薬物の副作用、有害作用の予知と回避 ライフステージと薬物。服薬指導 | ①薬物の一般的副作用を概説できる。 ②口腔内に発現する薬物の副作用を説明できる。 ③妊産婦、授乳婦への薬物投与の特徴を説明できる。 ④乳幼児、小児への薬物投与の特徴を説明できる。 ⑤高齢者への薬物投与の特徴を説明できる。 ⑥有病者への薬物投与の特徴を説明できる。 ⑦対象別の服薬指導について説明できる。 |
| 8 | 薬物の取り扱い(処方箋、剤形)、 薬物の保存管理(毒薬と劇薬、麻薬と向精 神薬、覚醒剤と医薬品) 薬物と法律 | ①処方箋の記載事項を説明できる。 ②薬物の剤形を説明できる。 ③医薬品の分類を説明できる。 ④毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる。 ⑤薬機法(医薬品医療機器等法)を説明できる。 ⑥日本薬局方を説明できる。 |